

# ヘリテージ・アラート

——17世紀より創り出されてきた東京における

「庭園都市パークシステム」のコアとなる神宮外苑の保全と継承に向けて

現在、明治神宮外苑の大規模な再開発計画に対して、住民や著名人から次々と再開発反対の声があがっている。新聞やニュースなどでも連日報道が絶えない。

そのような中で、日本イコモス国内委員会は、2023年8月31日から9月10日までシドニーにおいて開催された3年に一度の総会に出席し、「ヘリテージ・アラート※」発出の要請を行った。

その結果、会議に出席した全世界のメンバーの合意のもと、極めて異例の早さで2023年9月7日に、ヘリテージ・アラートが全世界に発信された。

本項では、ヘリテージ・アラートの翻訳を、日本イコモスの承諾を踏まえて掲載するとともに、本再開発問題の重要性を問いたい。

※ヘリテージ・アラートは、文化的資産の保全・継承を促進し、文化的資産が直面している危機に対して、学術的観点から問題を指摘し、未来世代に向けた保全と継承に向けた解決策を促進するために、ICOMOSの専門家および公的ネットワークの活用を推進するために発する声明である。

## ヘリテージ・アラート：東京・神宮外苑の都市林に差し迫った脅威。

再開発により3.4ヘクタールの公園と約3,000本の文化的資産としての樹木が失われる

2023年9月7日

ICOMOS (国際記念物遺跡会議 International Council on Monuments and Sites)  
ISCCL (国際文化的景観科学者会議 International Scientific Committee on Cultural Landscapes)  
日本イコモス 国内委員会 (ICOMOS Japan)

イコモスは、日本国内委員会 (ICOMOS Japan) および国際文化的景観委員会 (ISCCL International Scientific Committee on Cultural Landscapes) と共に、2023年9月に予定されている神宮外苑再開発計画 (3,000本以上の樹木の伐採計画を含む) の撤回を求めるヘリテージ・アラートを発する。これは、17世紀から続く東京における「庭園都市パークシステム」の中核を保全し、継続させるために不可欠なことである。

再開発において計画されている3棟の高層ビルの建設と、既存の野球場とラグビー場の新球場への建て替え・移転は、過去100年にわたって形成され、育まれてきた都市の森を完全に破壊することにつながる。

事業者は、三井不動産株式会社、明治神宮、日本スポーツ振興センター、伊藤忠商事株式会社である。東京都は、都民や関係者との適切な対話もないまま、この再開発計画を承認した。

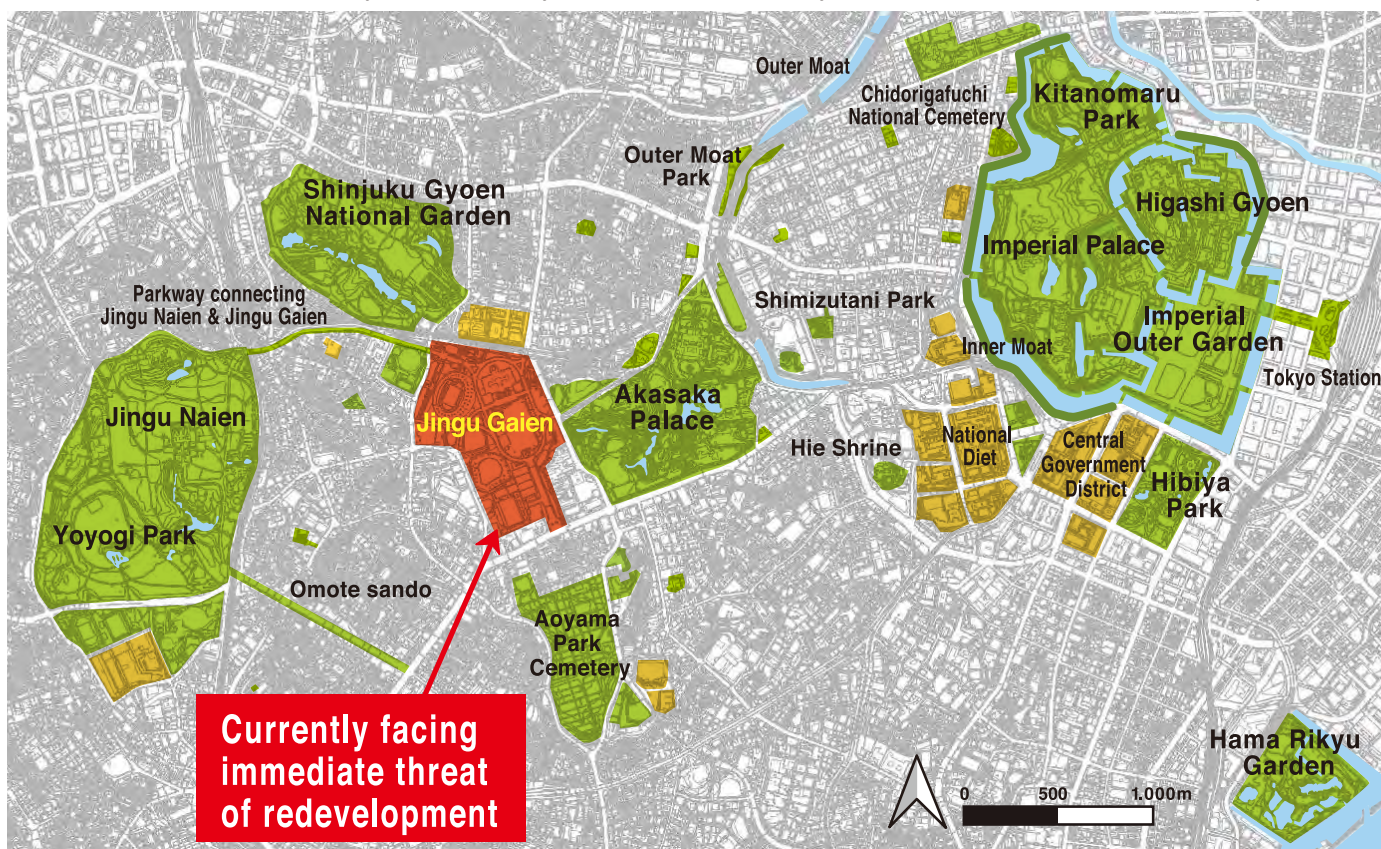
都市公園は人々の憩いの場であると同時に、豊かな生物多様性の維持にも貢献している。都市のヒートアイランド現象を緩和し、大地



震などの自然災害時の避難場所にもなる。神宮外苑は、市民の寄付と奉仕活動によってつくられた、世界の都市公園史上類を見ない優れた文化的資産である。

以上を踏まえ、イコモスはこのヘリテージ・アラートを発し、以下を要請する：

# Immutable Infrastructure Supporting Urban Vitality Garden City Park System in Tokyo since 17<sup>th</sup> Century



東京における「庭園都市パークシステム」の中核となる神宮外苑——再開発により差し迫った脅威にさらされている。  
作成：中央大学研究開発機構 グリーンインフラ研究室 石川幹子  
グラフィック：グラフィック・デザイナー角井典子、角井功

1. 事業者である三井不動産株式会社、明治神宮、日本スポーツ振興センター、伊藤忠商事株式会社は、神宮外苑の再開発計画を直ちに撤回し、国際企業として、宗教法人として、また、公明正大なスポーツ振興者としての社会的・倫理的責任を果たすこと。
2. 東京都は、超高層ビル建設のために、都市計画公園を削除するという決定が、公園を利用する都民の権利を永久に奪うものであること、再開発事業のために実施された環境影響評価には根本的な誤りがあり、科学的方法論に基づいて再審を行う必要があることを認識し、関連する都市計画決定を見直すこと。
3. 明治神宮は、神宮外苑が市民の寄付と奉仕活動によって造られ、「永遠に美しい公園として維持する」という約束のもと明治神宮に奉獻されたことを認識し、再開発事業から直ちに撤退すること。
4. 港区、新宿区、渋谷区は、将来の世代のために、神宮外苑が「名勝」に指定されることを確実にするため、協力して取り組むこと。

5. 日本国政府は、東京だけの問題とせず、積極的な解決策の方法を考え、共に取り組んでいくこと。

日本イコモスは、大量の樹木の伐採を伴わず、現在の計画から生じる二酸化炭素の排出を防ぐ代替案を提示した。  
イコモスは、多様な利害関係者が、公園の将来についての議論に貢献できるフォーラムを創り出すことを要請する。



新秩父宮ラグビー場建設のために、伐採される計画の建国記念文庫の森。森を取り囲み、銅板の壁が設置された。これに対し、ヒューマンチェーンの抗議が行われた。(2023年4月1日)

パリ、2023年9月7日

内閣総理大臣 岸田 文雄 様  
国土交通大臣 齊藤 鉄夫 様  
環境大臣 西村 明宏 様  
文部科学大臣 永岡 桂子 様  
文化庁長官 都倉 俊一 様  
東京都知事 小池百合子 様  
東京都議会議長 三宅 茂樹 様  
東京都教育委員会教育長 浜 佳葉子 様  
港区長 武井 雅明 様

港区議会議長 鈴木たかや 様  
新宿区長 吉住 健一 様  
新宿区議会議長 ひやま真一 様  
渋谷区長 長谷部 健 様  
渋谷区議会議長 丸山 高司 様  
三井不動産株式会社 代表取締役社長 植田 俊 様  
宗教法人明治神宮 宮司 九條 道成 様  
伊藤忠商事株式会社 代表取締役社長 石井 敬太 様  
独立行政法人日本スポーツ振興センター 理事長 芦立 訓 様

## ヘリテージ・アラート：東京・神宮外苑の都市林に差し迫った脅威。 再開発により3.4ヘクタールの公園と約3,000本の文化的資産としての樹木が失われる

拝啓

イコモス（国際記念物遺跡会議）は、世界の文化遺産保護に携わる専門家を代表する組織であり、130カ国から10,500人以上の会員を擁している。イコモスは、文化遺産の保存と保護を推進し、1972年に定められたユネスコ世界遺産条約の諮問機関でもある。

東京は人口1,400万人を擁する世界有数の大都市であり、イコモスは、東京が文化遺産の保護に特段の努力を払ってこられたことに敬意を表する。東京の中心には、江戸城を継承する皇居の森があり、17世紀以来、手厚く保存されてきた庭園群と、近代以降に生み出されてきた公園群は、東京の誇りとなっている。なかでも、皇居の森から、内濠、外濠を経て、赤坂御所、神宮外苑、神宮外苑、新宿御苑へと続くエリアは、江戸期より継承されてきた庭園群が手厚く保存されており、庭園都市・東京の中核を構成している優れた文化遺産である。また、1920年代の近代化の中で、神宮内苑と外苑を結ぶ公園道路が整備され、近代的パークシステムが、都市の骨格的構造として、最初に導入された地でもある。

神宮外苑は、この中核に位置する公園で、神宮内苑と対をなすものとして造られ、世界の公園史上でも類を見ないユニークな構造を有している。神宮内苑は「永遠の森」を目指し、それに対して、神宮外苑は「人々のための森」を目指して創り出された。神宮外苑は、東京の「庭園都市パークシステム」の中核を構成しており、世界の都市公園史上でも類を見ない、市民により創り出された優れた公園である。

しかし現在、イコモスは、神宮外苑が都市再開発によって約3,000本の樹木が破壊され、開放的な公園空間が失われる危機に直面していることを危惧している。イコモスには、この再開発事業に対する抗議の声が多数寄せられており、記事も掲載されている。その中には、貴国の国内委員会である日本イコモスからの書簡、日本の国会議員連盟、国際影響評価学会日本支部からの書簡、世界的に著名な音楽家や小説家からの書簡も含まれている。また、新聞などのメディアには300以上の記事が掲載され、21万8,000人以上の署名が寄せられている。

以上を踏まえて、イコモスは、現在進行中の都市再開発によって神宮外苑に差し迫った不可逆的な脅威がもたらされていることに対し、世界的な認識を広めるため、イコモスの最も重要な懸念の表明である、世界的なヘリテージ・アラートを発するものである。

ICOMOSジャパンは、2022年3月、公園まちづくり制度と地区計画の決定に伴い、再開発促進区が導入されたことにより、重大な問題が生じたことを示した。再開発計画では、都市計画明治公園が3.4ha削減され、超高層複合ビルの建設予定地となった。また、再開発促進区の導入により、風致地区の高さ制限15mから緩和され、190m、185m、80mの3つの高層ビルの建設が可能となった。この計画では、ラグビー場と野球場の建て替えと移転も認められた。全体で3,000本以上の樹木が破壊され、そのうち500本以上が樹齢100年以上、さらに500本が樹齢50年以上と推定される。イコモスは、これを文化遺産の不可逆的な破壊とみなし、気候変動への世界的な対応として、都市のオープンスペースと都市林を維

持することの重要性が高く認識されている今日、オープンスペースと成熟した遺産である樹木の容認しがたい損失とみなすものである。

オープンスペースの直接的な損失と成熟した遺産である樹木の破壊に加え、神宮球場の建設は、敷地の南東に沿ったイチヨウ並木の健全性に決定的な影響を与えると考えられる。イチヨウの幹からわずか6メートルしか離れていない場所に、スタジアムの建設のために深さ40メートルの杭を打ち込むことで、工事は土壌の水位に影響を与え、イチヨウに更なるストレスを与えると想定される。さらに、スタジアムの建設は、神宮外苑のシンボルであるイチヨウの日照にも影響を与える。これは、事業者と東京都が表明した「イチヨウ並木の永久保存」という公約に反するものである。

イコモスは、市民や利害関係者と協議することなく、世界的に有名な公園に高層ビルを建設することに、強く、警告を発する。

イコモスは、三井不動産株式会社、明治神宮、伊藤忠商事株式会社、日本スポーツ振興センター（開発責任者）に対し、都市再開発事業を直ちに中止し、神宮外苑を後世に残すよう求める。

イコモスは、都市再開発事業を認可した東京都に対し、都市計画決定の見直しを要請する。この再開発は、都市計画法で長年定められてきた高さ制限に適合していない。

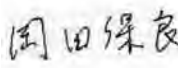
イコモスはさらに、多くの誤りや非科学的な方法論があると指摘

されている環境アセスメントに関し、都環境アセスメント条例に基づく社会的責任を果たし、見直しが行われることを要求する。

イコモスは、こうした法的手続きが、国民にほとんど、あるいは全く情報が提供されないまま実施されたことを憂慮する。私たちは、民主主義の原則が尊重され、神宮外苑の将来に関する情報が広く一般に周知されることを要望する。神宮外苑の将来について、多様な利害関係者が議論に参加できる場を設けるべきである。

また、イコモスは、関係省庁、地方自治体およびその関係部局に対し、この文化遺産が確実に保存されるよう最大限の努力をするよう要請するとともに、神宮外苑の持続可能な未来が確保されるよう、日本イコモスおよびイコモスの文化的景観に関する国際学術委員会、ならびにその他の専門家メンバーが持つ専門的知識をフルに活用して支援することを申し入れる。

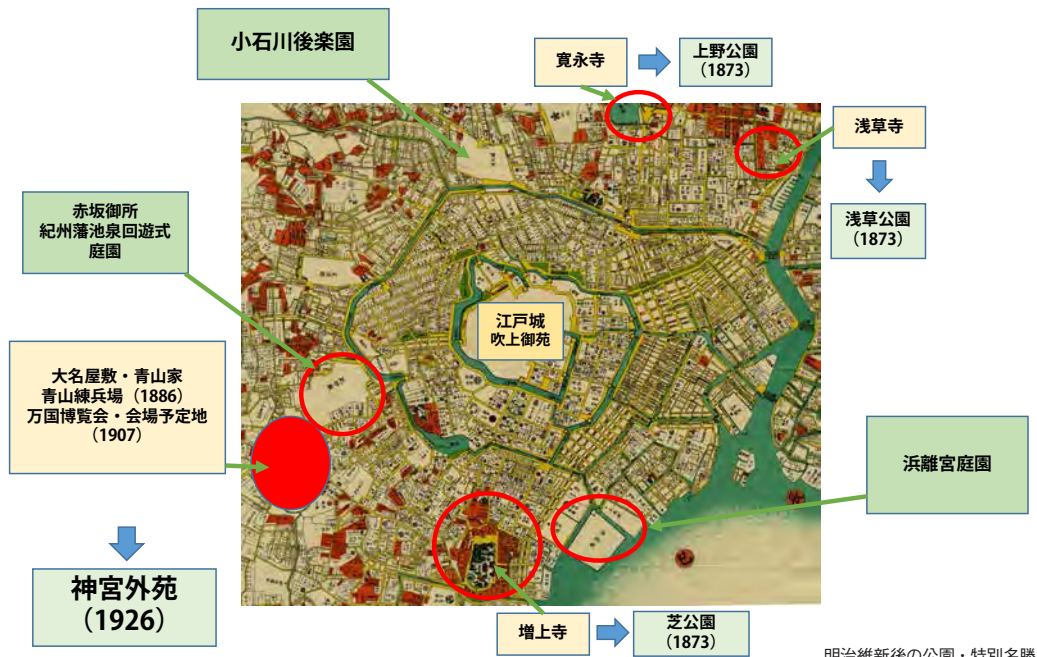
敬具

  
Yasuyoshi Okada  
President of ICOMOS Japan

  
Teresa Patricia  
President of ICOMOS

  
Elizabeth Brabec  
President of ISCLL  
ICOMOS – IFLA  
International Scientific  
Committee on Cultural  
Landscapes

<庭園都市パークシステム>



明治維新後の公園・特別名勝



庭園の中心部は嚴重に保存されていた (1915年)



1923年の関東大震災でも焼失を免れた庭園



神宮内苑と外苑の公園連絡道路 (パークウェイ) (1926年)



1945年の第二次世界大戦による焼失区域。庭園、外苑は樹木や池泉があり、焼失を免れた



東京都戦災復興区画整理計画図 (1946年)。赤丸でしめした皇居〜赤坂御所〜外苑のエリアは、江戸以来の市街地の形態が継承された



左/エリザベス・ブラベック教授 (国際イコモス・イフラ文化的景観科学委員会・会長)  
Prof. Elizabeth Brabec (International Scientific Committee on Cultural Landscapes of ICOMOS/IFLA)

このページの出所: <https://www.icomos.org/en/get-involved/inform-us/heritage-alert/current-alerts/125573-heritage-alert-jingu-gaien>

## <日本イコモス提案 夢の架け橋>

日本イコモス国内委員会は、2022年4月26日、事業者案に対して、代替案として「樹木の伐採を回避し“近代日本の名作・神宮外苑”を再生する提案」を行いました。

この案は、文化的資産としての神宮外苑を、未来の世代に私たちが、責任を持って手渡していくことのできる道筋を考えるための「たたき台」として、提示したものです。この間、多くの皆様に御支持と様ざまの御提案を頂戴いたしました。

今回、提示した案は、これらの意見を踏まえ神宮球場を現在の位置でリニューアルしたものです。この結果、現在、伐採が予定されている建国記念文庫の森は、完全に保全され、新たな植樹を行うことにより、より豊かな森として、未来へつないでいくことができます。

神宮外苑の創建時の初期案を踏まえて、小川を流し、多重ヴィスタの構造を秩父宮ラグビー場と、神宮球場の間に導入いたしました。このエリアは、神宮外苑を象徴する初代ナンジャモンジャがあった由緒ある地です。苑内交通は、オリンピック開催時に都市幹線道路の整備は完了しているため、苑内は、歩行者専用路といたしました。ただし、管理用、および非常時の交通は可能といたしました。

多重ヴィスタの導入により、外苑の主景である芝生広場に新たな命がふきまれることとなります。植栽計画は、日本イコモスが作成した「現存植生図」(図1)を踏まえて、都市林としての生態系の再生を基本として構成いたしました。

表1は、事業者案と、今回の日本イコモス案を比較したものです。事業者案では、伐採は743本ですが、イコモス案では、2本となります。計画後の樹木本数は、事業者案では1998本、イコモス案では2137本となり、何よりも創建時からの大木及び森を保全することが可能となります。

この「たたき台」を基に、多くの人びとが自由に意見を出し合い、現行の事業者の生態系を破壊する案ではなく、未来への架け橋が実現することを希望いたします。

ランドスケープ・アーキテクト  
石川幹子

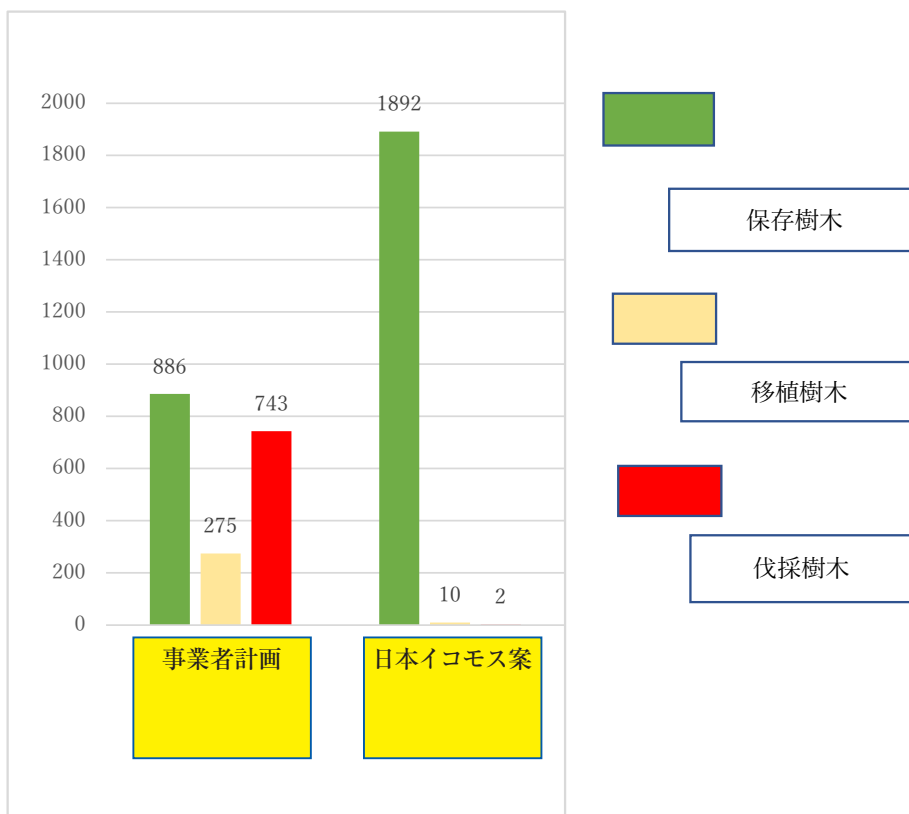


表1 既存樹木の保存・移植・伐採本数に関する事業者計画と日本イコモス案の比較表

### <既存樹木1904本について>

事業者計画：保存 886本、移植 275本、伐採 743本 合計 1904 本

日本イコモス案：保存 1892本、移植 10本、伐採 2本 合計 1904 本

### <計画後の樹木本数>

事業者計画：保存 886本、移植 256本、移植検討 19本、新植 837本

**合計 1998 本**

日本イコモス案：保存1892本、移植10本、新植 235本

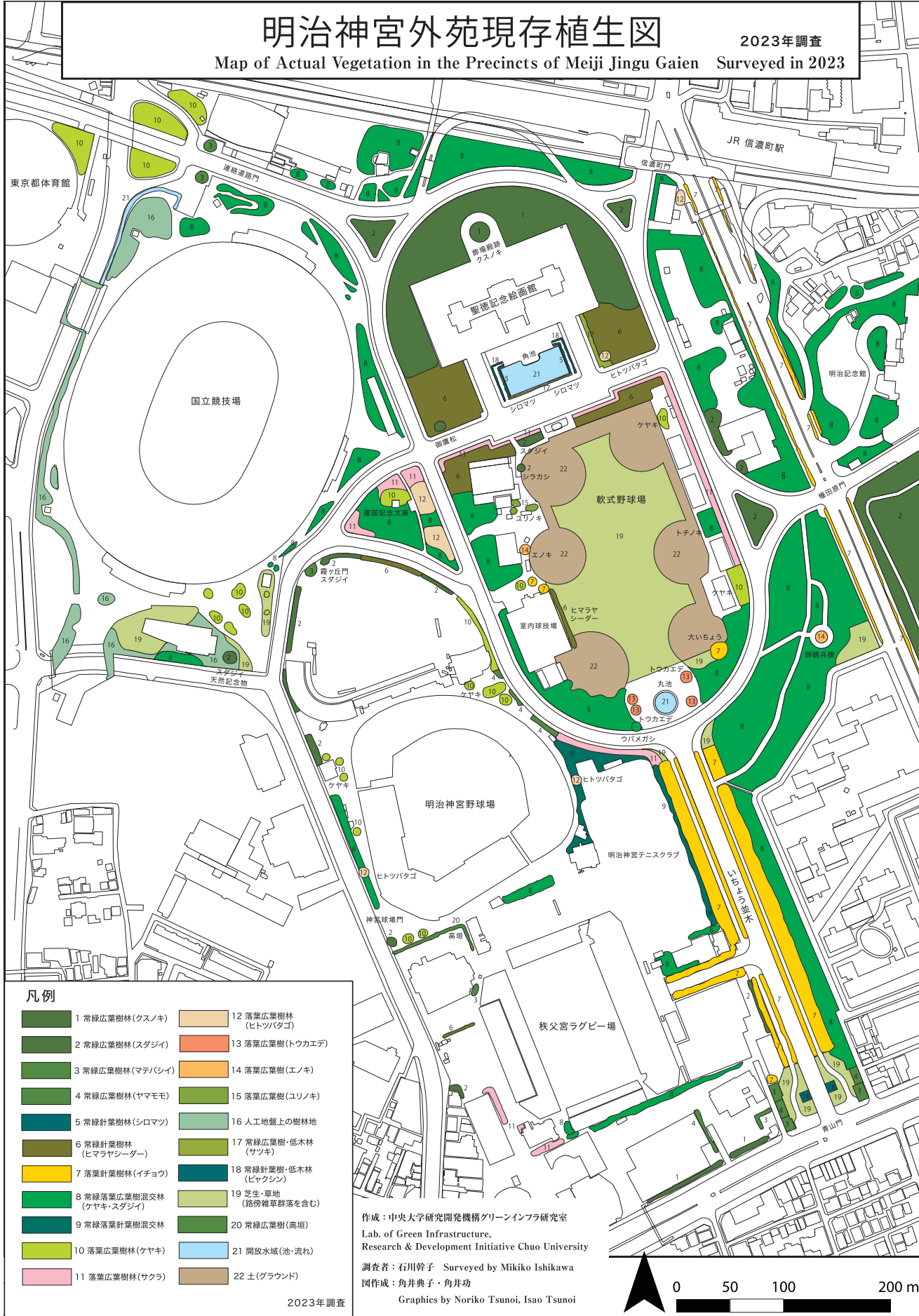
**合計 2137 本**

# 明治神宮外苑現存植生図

Map of Actual Vegetation in the Precincts of Meiji Jingu Gaien Surveyed in 2023

2023年調査

Surveyed in 2023



## 凡例

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| 1 常緑広葉樹林(クスノキ)         | 12 落葉広葉樹林(ヒトツバゴ)    |
| 2 常緑広葉樹林(スダジイ)         | 13 落葉広葉樹(トウカエデ)     |
| 3 常緑広葉樹林(マテバシイ)        | 14 落葉広葉樹(エノキ)       |
| 4 常緑広葉樹林(ヤマモモ)         | 15 落葉広葉樹(ユリノキ)      |
| 5 常緑針葉樹林(シロマツ)         | 16 人工地盤上の樹林地        |
| 6 常緑針葉樹林(ヒマラヤシーダー)     | 17 常緑広葉樹・低木林(サツキ)   |
| 7 落葉針葉樹林(イチヨウ)         | 18 常緑針葉樹・低木林(ビャクシン) |
| 8 常緑落葉広葉樹混交林(ケヤキ・スダジイ) | 19 芝生・草地(路傍雑草群落を含む) |
| 9 常緑落葉針葉樹混交林           | 20 常緑広葉樹(高垣)        |
| 10 落葉広葉樹林(ケヤキ)         | 21 開放水域(池・流れ)       |
| 11 落葉広葉樹林(サクラ)         | 22 土(グラウンド)         |

2023年調査

作成：中央大学研究開発機構グリーンインフラ研究室  
Lab. of Green Infrastructure,  
Research & Development Initiative Chuo University

調査者：石川幹子 Surveyed by Mikiko Ishikawa  
図作成：角井典子・角井功

Graphics by Noriko Tsunoi, Isao Tsunoi



0 50 100 200 m

図1 現存植生図

# 神宮外苑—夢のかけはし— JINGU GAIVEN— Bridge for the Peaceful World



図2 日本イコモスの代替案：神宮外苑—夢のかけはし—  
作成：中央大学研究開発機構 グリーンインフラ研究室